

會報

東海村書道連盟

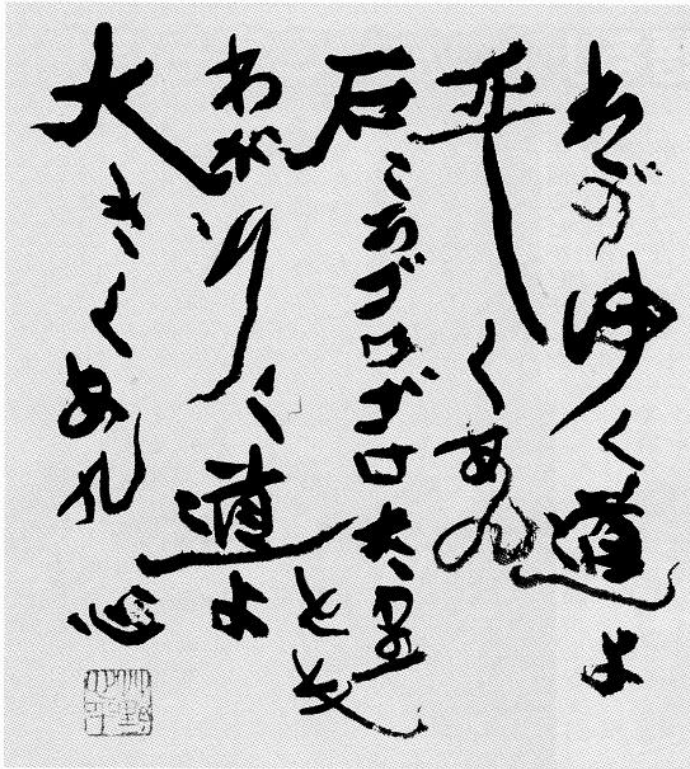
第103号

発行責任者

千葉龍亭
東海村村松2649-29
TEL 029-283-0520

鑑賞シリーズ No.37 (文人編)

草野くさのの
心平しんぺい (二九〇三年〜一九八八年)



草野心平は明治三十六年、福島県に生まれた。

詩人。日本芸術院会員、文化功勞者文化勲章受章。いわき市名誉市民。心平は詩人であるが書や画にも取り組み、書についてはこう云っている。「私はいいい字を見ることは好きであるが、つまらない字を見ることはつまらない。六朝や龍門や泰山、または顔真卿や空海や佐理、鉄斎などの、それこそ書を見るというナと思う。その造形美に感動もする。けれども私は、それら自分が敬愛する書を手本にして字を習おうと思ったことはかつて一度もない。…自分の場合は古今の名筆は習うのではなく、じっくり見とどけるものだと思っている。あとは出来るだけ忘れること。そして強いていえば、下手糞でもなんでもいいから、それこそカナクギ流でいいから自分なりの、自分だけの字を書くこと、どうやら私にとつてはそれにつきる。」……と

参考資料 天来書院

「漢字かな交じり書の名品」

わがゆく道よ 正しくあれ

石ころゴロゴロたりとも

わがゆく道よ

大きくあれ

令和元年度総会・懇親会の開催 併催「写真は語る」私の宝もの展

令和元年度の総会が五月二十六日(日)真崎コミュニティセンターに於いて開催されました。

今年度は長年続けて来た総会兼、研修旅行と書道講演会の交互実施の研修旅行の年でありましたが、諸般の事情により残念ながら見送ることになってしまいました。

総会は、皆さんのご協力によりスピーディーに進行され理事長挨拶の後、式次第に従い昨年度の事業・決算報告、事業計画・予算案等、提案された議題は全て承認されました。研修旅行の代わりに実施した懇親会は、昼食をとりながら「書道を離れた自由な懇談」とし、健康に関する情報の交換など和やかな時間の中にも有意義に過ごすことが出来て大変良かったと云う声が聞かれました。同時開催した



「写真は語る」「私の宝もの紹介」展

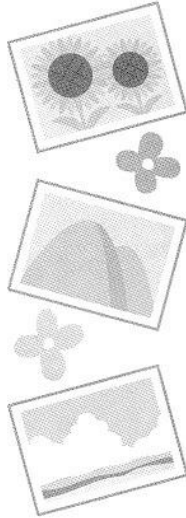
では、会員の皆さんから大切な写真や珍しい宝ものが紹介されましたが中には皆さんがビックリした宝ものをお持ちの方もおられました。また写真連盟さんから「東海村の今昔」という貴重な写真集をお借りして展示することが出来ました事もありたいへん良かったと思われました。

懇親会と「写真は語る」「わたしの宝もの」展

今後出来れば文化協会活動の活性化を図るため、連盟間の協力事業を実施していくのもひとつの方向ではないかと感じました。

「若かりし頃の思い出の写真」や「わが家のペット・自慢の菜園・わたしの宝もの・もう一つの趣味・昔の東海村」等々めずらしいものや見て楽しいものがたくさんありました。中にはウン十年前のピチピチした姿の写真に「これは誰？」という声が上がったりして楽しかったです。前述した写真連盟さんのご協力で「昔の東海村」を皆さんに知ってもらったことも大変良かったと思います。有難うございました。

懇親会と同時に実施した「写真は語る」と「わたしの宝もの」展は自由参加と致しましたが思いがけず多くの出品がありました。



私の宝もの



北支部

佐藤 梅子 (梅苑)

— 思い出の写真 —



元号が令和になった五月のある日、終活作業をしていて一枚の写真を見つけました。それは、おそれおおくも現在上皇后になられた美智子さまと一緒に写っている写真でした。

私は県立保育専門学校を卒業後、民間保育所勤務を経て実家のある美和村に勤務して

いまですが、昭和四十二年に厚生省主催の「全国僻地保育所保母研修会」が開催されるに当たり、茨城県からは美和村が選ばれ、私が代表で出席させていただきました。写真はその時に撮影されたもので美智子さまの左が私です。思い出して見ると二泊三日の研修会でしたが講師による実技指導や福祉施設の見学、帝劇での観劇、そして最終日には東宮御所に案内され大広間で茶菓の接待を受けました。

その時、全国各県からの代表者四十六人が、北海道から南へ順番に六名グループに分れ、そこへ美智子さまが、次々と廻られて声を掛けられておられましたがとても美しくかったです。今思い出しても私には夢のような時間でした。この写真は私の大切な宝ものです。

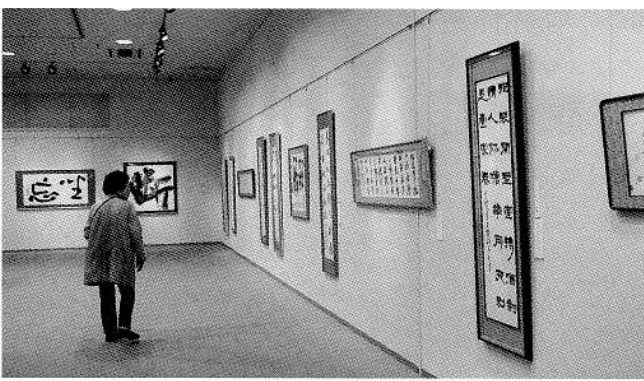
二〇一九 東海村芸術祭

五月十二日(日)～六月八日(土)まで、第三十一回東海村芸術祭(展示・催事部門)が東海ステーションギャラリーに於いて開催されました。

書部門は、五月十九日(日)～五月二十五日(土)で展示場所は二階ギャラリーでした。出品者は二十九名と昨年より少なかったのですが、展示効果を心配しましたが、扁額や全紙作品が適当に有って展示間隔やバランスを程よく展示すること

が出来、ゆったりとした雰囲気を感じられる展示になりました。作品もさまざまで小字数あり、多字数あり、篆刻あり、漢字かな交じり書あり、かな作品あり篆書、隸書、草書、行書、楷書作品が有ってほんとにバラエティに富んだ書展になって来ていると思います。

近隣市町村の書道愛好家からは東海の書展は自由で見て楽しいという声を何度も聞いています。大変うれしかぎりです。



私の宝もの



北支部

佐藤 梅子 (梅苑)

— 思い出の写真 —



元号が令和になった五月のある日、終活作業をしていて一枚の写真を見つけました。それは、おそれおおくも現在上皇后になられた美智子さまと一緒に写っている写真でした。

いまですが、昭和四十二年に厚生省主催の「全国僻地保育所保母研修会」が開催されるに当たり、茨城県からは美和村が選ばれ、私が代表で出席させていただきました。写真はその時に撮影されたもので美智子さまの左が私です。思い出して見ると二泊三日の研修会でしたが講師による実技指導や福祉施設の見学、帝劇での観劇、そして最終日には東宮御所に案内され大広間で茶菓の接待を受けました。

その時、全国各県からの代表者四十六人が、北海道から南へ順番に六名グループに分れ、そこへ美智子さまが、次々と廻られて声を掛けられておられましたがとても美しかったです。今思い出しても私には夢のような時間でした。この写真は私の大切な宝ものです。

二〇一九 東海村芸術祭

五月十二日(日)～六月八日(土)まで、第三十一回東海村芸術祭(展示・催事部門)が東海ステーションギャラリーにて開催されました。

書部門は、五月十九日(日)～五月二十五日(土)で展示場所は二階ギャラリーでした。出品者は二十九名と昨年より少なかったのですが、作品の展示効果を心配しましたが、扁額や全紙作品が適当に有って展示間隔やバランスを程よく展示すること

が出来、ゆつたりとした雰囲気を感じられる展示になりました。作品もさまざまで小字数あり、多字数あり、篆刻あり、漢字かな交じり書あり、かな作品あり篆書、隸書、草書、行書、楷書作品が有ってほんとにバラエティに富んだ書展になって来ていると思います。近隣市町村の書道愛好家からは東海の書展は自由で見て楽しいという声を何度も聞いています。大変うれしかぎりです。

